

6、必要なることをよく呑みこみます

身體検査の後なご何でも食べる事の必要をよく云ひきかせるご體重が重くなりたいた爲に子供自身の方から進んで嫌ひな食物も我慢して食べやうご努力する様になるものであります。

7、慰め勵ましてやること

食事中保姆はなるべく偏食兒の傍で食事をする嫌ひなものを努力して食べやうごしてゐる幼兒に同情をもつていたはり勵ましてやる。例へ一口でも食べられた時には心から幼兒と一緒に喜んでやる事は偏食の矯正される基となるものであります。

8、家庭との連絡

幼稚園のみにての偏食矯正では一日一回の食事にすぎず眞に幼兒の健康増進のためには家庭の食事に迄及ばさなくてはならぬ幼稚園と家庭との連絡により母親が先に立つてこそ初めて其實を擧げ得るものである。しかしこの事柄は至難事であるごを痛感して居る次第であります。

尙幼兒の保健に關する重要な事項として間食問題・睡眠問題・衛生習慣問題・屋外保育・郊外保育等を數へるのであります何れも幼兒保健の根本的問題に屬するのでありますが是等は又の機會に申し上げる事にいたします存じます

す。

曩に荒木文相は「人生は嫩葉から」「良民は保育から」ごの聖句を吾等に贈りたまひ日本人を作る最初の教育なる幼兒教育の重要性を力強く表明され保育者を御獎勵下さいました。吾等之に答ふるの道は只管粉骨碎心保育報國の實を擧ぐる事より外はないご深く信ずるものであります。

健康

海への幼稚園

高濱キミノ

本園の主旨

煙ミ塵ミ混雜した環境の内に、餘りにも人爲的に生い育つた都會の子供は虚弱で恰例に過ぎる虞れがある。かやうな幼兒を青空の下で充分自然に親ませ、空氣も清く日光量も豊かな南海沿線、助松で保育し、童心の伸びるが儘に身も心も清々しく、すく／＼ご育つ中に、良い習慣を養ひ虚弱な子供は健康に、健康な子供はより一層健康に育て上げるのが當園の生旨である。

幸ひ當園は、健康の養素である清澄な空氣を滿喫しながら日光を存分に受ける事が出来る。しかし幼兒をより一層健康に育てあげるためには、榮養食の攝取が必要である。

當園では榮養食を作るにあたり大阪市衛生試験所技師の指導を受け、その獸立表をあらかじめ前週の土曜日に各自家庭に持ち歸らしめ、其を實行することに居る。その費用は、昭和十二年度までは一食拾錢宛であつたが、昭和十三年度からは、一食拾貳錢宛を申受けることにして居る。

入園當時は偏食幼児も相當多く見受けたが、日を経るに隨つて追々矯正せられて來た。その極端な實例として、或る一幼児は、入園當時、晝食の際御飯を二口喰べたばかりで、副食物には少しも手をつけず、十一日目に始めて御飯を半分程喰べることが出來たが、副食物は依然として少しも手をつけない。そのため毎日々々今日は今日は祈りつゝ一箸でも口にすれば譽めつゝ日を送つて居た。六月初旬から御飯も二〇〇瓦全部喰べる様になつた。(然し二〇〇瓦以上の分量はまだ要求しない)副食物も少く残す位位になつた。この様に比較的早く矯正出來た理由は

- 1、清潔なる空氣の許で生活する爲め食物の消化が早い
- 2、午前中の間食なき爲め食事の際嫌なものでも知らず知らずに喰べる。

からである。偏食は結核の因であるさへ云はれる程であるから、當園では偏食の矯正に相當の犠牲を拂ふて盡力して居るのである。(獸立表は終りに記載する)。

次に當園で行ふ遊戯及び唱歌は、幼児に適する種々の材

料中から當地にふさはしい材料を選び、出來得る限り氣分のさはやかな時に無理なく行ふ。自由遊びに、戸外に、觀察の際に、あらゆる機會を捉へてこれをなすことは云ふまでもない。

また觀察としては、あらゆる材料を探り、周圍の材料により刺戟されて子供自ら働かせるやうにつこめる。幼児自身に眼に不思議に映じたものがすべて觀察材料となり得るもので、種々なものに目をふれさせ、物をみつめて、興味を感じる。——その態度即ち原の力を作りたうことが主眼である。

また談話は、一天のさかに晴れ上つた時なごお庭の實物を觀ながら、子供の家の中に、あるひは保姆のひざの周圍に、よせ集めてなす場合もあり、また食後の休息時間に軽い談話なごなす場合なごもある。殊に保健中心に關する談話は幼児にわかる範圍内で、幼児生活に則して話す場合が多い、お互ひに話し手になり、聞き手になり、席なきも自由に、いついかる場所でもその場面が展開され得るやう、自由に、のびやかに取扱つて居る。

手技は出來るだけ惠まれた周圍の自然物を採集し、大筋群を動かせる簡易なもの、しかも作る樂しみを、出來上つたものを以つて、生活出來る樂しみを味はせるもの、例へばレンゲ草を挿んで花束を作り、櫻の花びらを枯れ松葉

にさして、繋ぎ方の實際をなし、お母様へのお土産を作り、或はクローバーの花を摘んで首飾を編み、時には野原にて蘭草や麥稈をつんで花籠、螢籠を作るなど、其他別に一定のものをなす場合もあるが、時としては見本通りにする云ふことを主にしないで、幼児の心の動きをそのまゝ製作の上に表現出來得るものを主とするところもある。従つて材料を周圍に豊富にさゝのへ置くことを必要とする。また幾日もくもくつかつて仕上げる場合もある。

その他保健中心としての遊びとしては、海邊の遊び、松林での遊び、まゝ事遊び、戦争ごっこ、箱積木遊び、その他各種遊具による遊び等々——なるべく自由にさせてゐる(遊びの記録の二三終りに記載する)

要するに幼稚園時代は社會生活の始まりであり、長い一生の出発点である。人間將來に於ける心身共に健全なる發達の基礎も、人格を養成される基礎も、將來の發達發展の基も、茲に於て始めて作らるゝものである。

だから幼児をして、のんびり幼児らしく喜々として子供の生活に生活せしめて、その心身の強さを養はせることにつとめねばならぬ。

新鮮な空氣の中で、豊かな日光を浴び、適當な筋肉運動をなし更に活動力を助長するためには日常攝取する食物の栄養に注意して偏食なからしめ、以て身體の健康を計らね

ばならぬ、かくすれば幼児の生活力も精神力も自然に強くなると思ふ。

故に幼稚園は從來自分で強く、正しく、善く生きて行く基本の力を養ふて、自身ある身體を作り、將來國家の爲め有用なる人物になるやう導かなければならぬ。吾々はこの重大なる使命の許に精一つばいの力で其責任を果したいと思ふ。

保育過程

一、松林での遊び 朝露にしつみり落ちついた砂をさくく踏んで松林へ行く。やがて松林の一角で松の香、磯の香を、一杯に吸ふてラデオ體操の一時、(時には思ひきり一二三四、幼児に呼稱をつけさせて)それが終る自由遊び。

直ぐ足の下を盛つて山を作り、其れを掘つてトンネルを作る、公園が出来る、又塹壕が出来、トーチカが出来る。可愛い蟹や蟲を取つて汽車にする、可愛い汽車はトンネルを抜ける、時には鐵橋の下へストップする。子供等は一生懸命だ。

「先生々々」嬉しそうな聲が高い所です。そは一團の男兒、手頃な松の木に登つて、手をたいて居る。一間か、せめて一間半位の高さの枝まで、見守つてゐる、慣れ

た二三人はする／＼に難作なく登つて、さも勝ち得た様に又しても手をたゞく。まだ充分に登れ得ぬ幼児は顔を赤くして努力してゐる。幸に松の木の肌は、かさ／＼してゐるので幼児には格好な自然の登攀木だ。横たほしに倒れた松の大木それを傳つて、平均臺、飛越臺の代用にして居る。失敗しても下は軟かい砂の上なので怪我もない。幼児等はかうした遊びの中に、あらゆる筋肉を運動させて知らず／＼の中に鍛へられて行く。

二、戦争ごっこ 集れ、前へ進め、天に代りて不義を打つ……ミ男兒は幼稚園の運動場、草原、松林の中なごで戦争ごつこのはやるごこ、到るごころで可愛い／＼兵隊さんは大威張りで進んで行く。「突貫」「ワア」ミ喊聲を擧げて小高い砂丘の上に登つて行く。年少幼兒も、女の兵隊さんも仲間入りをして萬歳／＼／＼ミ丘の上で歡聲を擧げる。遅ればせに先生もついて行く。兵士は大得意で敵の陣地占領、一番乗りの勇士の姿そのまゝに張り切つてゐる。かうして又次の丘へ陣地占領にご、突貫を續ける。やがてさしもの勇士等も走り疲れて砂の上に足を投げ出して一休み。時にはスコップを持ち出して塹壕を掘る。又、圓を描いて土俵を作り相撲ごつこをするごこもある。小さい力士、大きな力士、皆、汗握ぎれば女兒も土俵の上で押し合ひが始まる。

三、海への遊び 波打際近くで洋服の袖をまくつて井戸

を掘り池づくりなごに餘念がない。小さな池には、貝、魚、海草なご、時には生きた小魚も糺つて。その無心な、本眞劍な姿に思はず臉の熱くなるごこもある。尙、海岸方面は夏の終り頃から初秋にかけて時々苦潮さいつて潮流の關係であるか、澤山な小魚が酒酔のやうにふら／＼ミ渚へ打上げられてピチ／＼して居る事がある。お天氣のよい日は其を取りに行く。バケツ、網、籠等を持つて幼兒等は時のたつのも忘れて小さな鱗、はぜ、かつちよ、等を捕へて喜び興ずる。夢中になつてパンツを、洋服を濡らすごこもあれご、幸ひお日様の暖かい光を受けて風邪を引く様な事もなく、却つて知らず／＼の中に皮膚の抵抗力を増して行く。引き潮の時には洲の上に、石のかげに牡蠣、いそぎんちやく、あさり、やきかり、蟹なご觀察の材料はいくらでも出て来る。時には大きな、うなぎが飛び出して大騒ぎをするごこもある。

四、お庭での遊び 園舎の周圍の原つばには四季折々に色々な雑草が咲き亂れ、色々な生物が生活してゐる。その悉くが幼兒の玩具であり、友達であり、觀察の材料であるので貧弱な自分等の力の足りなさが嘆げかれる。養蠶の家、蜘蛛の争、尺取り蟲の歩き方、でん／＼蟲の競争、ごんぼ、蝗、バッタミ幼兒の興味は盡くる所を知らず。又運動場の横を流れる細川には、鱈、目高、アメンボ、水すまし、蛙、

蟹、エビ等、雨上りの出水の後には龜さんも池から這ひ出して此所も亦幼兒の興味の中心、長靴をはいて蟹取り、鱈取りに餘念がない。

お庭の彼所、此所に散在せる五戸の子供の家は花屋さんに、御園子屋さんに、粉屋さんに、或る時は汽車になり、電車になり、汽船になつて喜ばれる。かうして幼兒等は恵まれた環境の中にはさんざ一日を、戸外で思ふ存分に清浄な空氣と日光を受けて居る。随つて皮膚は小麦色にやけて、はち切れそうな元氣に満ちてゐる。暑さ寒さの烈しい日、雨天の日なきには、遊戯場の箱積木で迂り臺を作り、軍艦が出来、飛行機なきを作つて遊ぶ。或る時は捕鯨船や漁船のまねなごして、女兒は又廣い御座敷等を作つて御客様をつこなごにする。

五、晝食の状況 毎朝出席調査の後、お食事當番を男女一名づゝ定めて男には青、女には赤の徽章をつける。當番の役目は食前机を拭いて清めること、御飯の皿を各幼兒へ配ること、食後の後仕末をすることなきである。當番の手によつて皿が配られて居る中に、他の幼兒は手を洗ひ容儀を整へて、箸と湯呑みを持つて各自の席に着く。一同揃ふと、「箸取らば天土御代の御恵み、父母や師匠の恩を味へ」頂きますご感謝の歌を唱へて、ゆつくりと良く嚙んでいたやうく。そして好嫌ひを言はぬやう、何でも残さずに頂ける

献立表は最近實行したものの四週間分お目かけます。品物の手廻らない時又は價に變動の甚だしい時などは臨時變更する事も時々あります。

量	數	材	調理名	月日	量	數	材	調理名	月日	量	數	材	調理名	月日
40	10	節麥	煎り生節	十月三日 (月)	40	10	豆人権	煎り豆腐	九月二十九日 (木)	40	20	菜麻物飯	饂飩煮付、菊菜浸し、關東煮	九月二十六日 (月)
10	5	一乃			10	5	海一乃			20	5	胡乃		
10	10	ス物飯			10	10	ス物飯			10	10	乃御		
10	10				200	200				200	200			
40	10	茄焼	野菜田樂	十月四日 (火)	10	10	人麹油	のつべい汁、佃煮	九月三十日 (金)	30	30	羅薯	天馬麹香御	九月二十七日 (火)
30	30	豆味乃			20	20	薯揚芋			30	30	乃御		
10	10	子腐輪			20	20	鷹粉物飯			10	10	乃御		
10	10	嚼物飯			5	5	栗乃			200	200			
10	10				200	200								
200	200													
40	30	鱈芋物飯	芋棒鱈煮付	十月五日 (水)	40	少々	鯨生大人	鯨時雨煮、紅白生酢	十月一日 (土)	20	10	干豆物飯	味淋干、鵲豆煮付	九月二十八日 (水)
10	10				20	20	乃御			10	10	乃御		
200	200				200	200				200	200			

月日	量 (ムラグ)	材	調理名	月日	量 (ムラグ)	材	調理名	月日	量 (ムラグ)	材	調理名	月日	量 (ムラグ)	材	調理名	
十月十七日(月)	40 20 5 16 200	練甘白香御 藍麻物飯	練照煮、甘藍浸し	十月十三日(木)	40 30 30 10 200	饅甘青香御 藷葱物飯	魚鹽焼、甘藷煮付	十月十日(月)	20 20 20 20 10 200 3 5	蕎麥根麥物飯 乃 麻堅利油粉	甘人蓮午香御胡米	十月六日(木)				野菜寄揚げ
十月十八日(火)	10 20 30 10 200	薇厚竹香御 揚輪物飯	薇煮付	十月十四日(金)	40 5 30 20 10 200	蒲高野里隱香御 鉾豆元乃 腐芋豆物飯	お煮	十月十一日(火)	40 30 少々 10 200	鮭茄畷香御 粟乃 子實物飯	鮭の松風	十月七日(金)				
十月十九日(水)	30 10 20 20 5 10 3 10 200	豚人午玉椎片香御 肉參莠葱茸スービン栗乃粉物飯	八寶菜	十月十五日(土)	30 30 30 10 10 5 3 10 100	牛馬玉午糸茱葛香御 鈴菰蒲 肉薯葱莠蕪スービン粉物飯	牛肉そぼろ煮	十月十二日(水)	30 20 30 10 10 200	肉葱薯ス漬飯	牛玉馬比福御 鈴一神	十月八日(土)				カレーライス

月日	量 (ムラグ)	材	調理名	月日	量 (ムラグ)	材	調理名	月日	量 (ムラグ)	材	調理名					
十月二十日(木)	40 20 20 5 3 3 10 200	胡麻酢 鯛南蠻揚げ白菜 鱒青白片胡香御 胡栗麻乃 葱菜麻粉油物飯		十月二十一日(金)	20 20 20 10 5 10 5 10 200	野築前和へ 入大蓮菰椎油白香御 胡栗麻乃 參根根蕪茸揚麻物飯		二月二十二日(土)	20 10 10 少々 40 10 200	松茸御飯、澄汁 松縮細油午豆三香御 魚雜揚莠腐菜物飯		神嘗祭				魚ポイルド、白ソ リス掛け
																味噌汁、甘藷甘煮 若青白赤甘香御 布葱噌噌藷物飯

やう習慣つけることに努力する。

分量なごも一組に三段位の差がある。(主に御飯に於て本年度年長組四十五人の幼児中、大盛十名、小盛り二名、他は普通の分量(約二〇〇瓦程)之は幼児の要求により、又體格を見て適宜増減する。年少組二十五人中大盛一名、他は普通の分量(約一八〇瓦程)。言ふ迄もなく月の進むにつれて次第に幼児の希望により量を増して行く心遣ひは忘れない。食後は齒刷子を用ひて齒を磨く事にしてゐる。

(海への幼稚園は、大阪府南海沿線助松にございます。 記者)